

全ク設計者ガ精密ナル研究ヲ行ヒ、先例ニ泥マズシテ獨創的ノ構造ヲ案出シタ爲デアル。

要スルニ平賀君ガ高速度艦船ニ關スル研究ヲナシ、其ノ結果ヲ應用シテ設計セル輕巡洋艦ノ如キハ、新ニ此ノ種ノ軍艦ノ型式ニ一時代ヲ劃セルモノデアツテ、造船學上ノ功績顯著ナルモノト認メラレド。

## 藥學博士近藤平三郎君ノ本邦產植物ニ含マル、

### 數種ノ「アルカロイド」ニ關スル研究ニ對スル授賞審査要旨

藥學ノ發達ガ「アルカロイド」化學ノ進歩ニ負フトヨロ最モ大ナルハ言ヲ俟タズ。而シテ、近藤君ハ約十年來多數ノ門下生ト共ニ、實ニ此ノ「アルカロイド」化學ノ方面ニ於テ優秀ナル功績ヲ擧ゲタリ。掲題ノ研究ハ大正九年以後同君ノ研究室ヨリ發表セル二十有七篇ノ論文中ニ包含セラル、モノニシテ、之ヲ歐米斯學ノ中心ニ於ケル同種ノ研究ニ比スルモ巔然頭角ヲ顯セリ。今此等ノ論文ヲ大別シテ左ノ二種トナスヲ得ベシ。

第一、「シノメニウム」屬及ビ「コックルルス」屬植物中ニ含マル、「アルカロイド」ニ關スル研究。

第二、漢藥苦參中ノ「マトリン」ノ化學的構造ノ研究。

第一ノ研究ハ主トシテ日本產ノ前記植物ニ含マル、「アルカロイド」ノ化學的構造ニ關スルモノニシテ、此ノ研究ノ爲近藤君ノ已ニ檢査シタル植物ハ「オホツバラフヂ」、「衡州烏藥」、「ハスノハカヅラ」、「都島ツバラフヂ」、「アオツバラフヂ」、「カウモリカヅラ」、「鳳山ツバラフヂ」、「倒地拱」ノ八種ニシテ、

此等植物ヨリ「シノメニン」「ヂヴェルジン」「コクラウリン」「メタフアニン」「プロトステフアニン」「エピステフアニン」「インズラリン」「トリロピン」「ホモトリロピン」「ダウリチン」「テトランドリン」等十有餘種ノ「アルカロイド」ヲ發見シタリ。此等ノ内「シメノニン」「ヂヴェルヂン」及「トリロピン」ノ三種ハ已ニ他ノ人ニヨリテ抽出、命名セラレタリシト雖モ、其ノ精製及化學的研究ハ近藤君ニヨリテ著大ナル進捗ヲ告グルヲ得タリ。其ノ他ノ「アルカロイド」ニ至リテハ總テ同君ニヨリテ新ニ抽出、命名セラレタルノミナラズ、其ノ化學的研究モ亦同君ニヨリテ初メテ遂行セラレタルモノナリ。就中「シノメニン」ニ就テハ近藤君ハ其ノ「7メトキシテバイノン」ニ層スル一種ノ光學的異性体ナルコトヲ確定シ、其ノ中ノ「メトキシ」原子團ガ7ノ位置ヲ占ムルコトヲ全然合成法ニヨリテ立證セリ。此ノ如ク「テバイノン」系ノ「アルカロイド」ガ天然ニ而カモ光學的異性体トシテ存在スルコトヲ發見シタルハ、同君ヲ以テ嚆矢トスベク而カモ之レ「アルカロイド」化學上極メテ興味アル事實ナリ。

「フエナントレン」系ニ層スル「アルカロイド」ノ第三核ト窒素ヲ有スル側鎖トノ連結點ニ關スル問題ハ、數十年ニ亘ルモ尙未解決ノモノナルガ近藤君ハ「シノメニン」ノ研究ニヨリテ圖ラズモ此ノ問題ノ解決ニ參加スル機會ヲ得タリ。即チ同君ハ「シノメニン」ノ構造式中「クノル」「フロインド」氏等ノ橋狀鎖式ノ部分ヲ改メテ5或ハ13ノ炭素ニ單純ナル連結點ヲ認メ、從テ8及ビ14ノ炭素間ニ不飽和結合ヲ推定スルト同時ニロピンソン、ガランド氏ノ推定セル「テバイノン」ノ構造式ニ反シ、純然タル「イソヒノリン」型ノ一式ヲ與ヘ又「テバイノン」ニ對シ新ニ「φテバイノン」ナル一異性体ヲ提供セル

ハ學術上特ニ顯著ナル業績ナリトス。

「コクラウリン」ニ就テハ近藤君ハ其ノ「ベンチルテトラヒドロインソヒノリン」型構造ヲ有スルコト殆ド疑ナキニ至ラシメ、又「エピステファニン」ノ構造ハ「アポモルフイン」型ノモノナリト信ズベキ理由ヲ提供セリ。

其他ノ「アルカロイド」ニ就テハ實驗材料ノ關係上近藤君ノ研究ハ未ダ半途ヲ經タルニ過ギザルモ、「ケトン」型酸素ヲ有スル「シノメニン」及「エピステファニン」ノ相互類似性並ニ橋狀酸素ノ存在セル「トリロピン」「インズラリン」及「テトランドリン」ノ相互類似性、更ニ又「アオツヅラフヂ」及「鳳山ツヅラフヂ」ハ共ニ主要「アルカロイド」トシテ「トリロピン」ヲ含ミ、副「アルカロイド」ニ於テ二者始メテ相違スルト言フ如キ極メテ興味アル幾多ノ事實ノ認メラレタルモノアリ。

第二ノ研究ハ、長井博士ガ初メ「マトリン」ヲ漢藥苦參中ニ發見シ(明治二十二年)次デ同博士ト共ニ、近藤君ガ其ノ化學的研究ヲ發表(明治三十六年)シテ以來長ク中絶シタリシガ、更ニ十有七年ヲ隔テ、近藤君ガ其ノ研究ヲ再興シタルモノニシテ、已ニ「マリトリン」ノ分子中ニ「ヒヌクリヂン」型核及ビ「ピロリヂン」核ノ存在スルコトヲ立證シタリ。蓋シ「マトリン」ハ諸種ノ反應ニ於テ屢分子内ノ轉位ヲ起シ、其ノ真相ヲ捕捉スルコト甚ダ困難ナル彼ノ同族「アルカロイド」ナル「スバルテイン」「ルバニン」及「ルピニン」ノ如キト相似タルモノアルニ拘ラズ、已ニ其ノ構造ノ一半ヲ窺知スルヲ得タルハ是又近藤君ノ功績大ナリト言ハザルベカラズ。

以上略述セルモノ、外尙窒素異性環狀體ニ對スル「ブロムチアン」ノ反應、朝鮮及會津人參ノ研究

等數十篇ノ研究報告ハ、近藤君ノ研究室ヨリ踵ヲ接シテ出デツ、アリ、以テ同君ガ自ラ着實勤勉ナル研究者タルニ止マラズ、後進ニ對シテモ亦卓越セル指導者タルコトヲ知ルニ足ルベシ。

之ヲ要スルニ、近藤君ノ研究業績ハ、之ヲ藥學上ヨリ見ルモ亦有機化學上ヨリ見ルモ、共ニ極メテ有益ニシテ學術上貢獻スルトコロ著大ナルモノトアリト認ム。

正誤表

頁	行	正	誤
二〇	終リヨリ七	窮メテ極	テ
〇	〃	縱	横
三	三	函數論	的函數
四	二	テニシテ	合
〃	四	掛	谷掛
五	二	シタルノミ……シタルノミ……	
六	一行ヲ二行ニ二行ヲ一行ニ改ム		
〃	三	モノアリ	モノナリ
〃	四	困難ナルト	困難ナルコト
六	五	國文學者	國文學者
七	二	多クソノ多ク	多ク
九	七	コ	ヨ
〇	七	ト	ト
〃	三	炭素	炭素
二	四	終リヨリ三	モノアリト